**【小学校・中学校・義務教育学校用】**

令和７年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） |
|---|
| A：十分達成できている |
| B：おおむね達成できている |
| C：やや不十分である |
| D：不十分である |

| 学校名 | 武雄市立武雄中学校 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 1　前年度<br>評価結果の概要 | ・フォーサイト手帳の活用を主軸として、主体的に学ぶ生徒の育成を目指す。<br>・生徒会活動を主軸として生徒主体の仲間づくり、学校づくりをさらに推進する。<br>・全学年を通した系統的な「総合的な学習の時間」の充実、生徒、保護者、地域の三者連携による特色あるカリキュラムを通して、郷土愛の醸成をさらに推進する。 |
| 2　学校教育目標 | 高い志と誇りをもち、共(友）に学ぶたくましき生徒の育成 |
| 3　本年度の重点目標 | ①フォーサイト手帳の活用促進を通して、キャリア教育の一層の充実を図り、PDCAサイクルを生かし、主体的に学ぶ態度を身に付けさせる。<br>②出番、役割、承認の「開発的生徒指導」を活用した生徒主体の生徒会活動を充実し、生徒主体の仲間づくり、学校づくりを行わせる中で「発達支持的生徒指導」を実践する。<br>③教職員がウェルビーイングの実現を目指すことを通して健康的に日々の業務に従事できる環境整備に努め、質の高い教育を実践する。 |

## 4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

（1）共通評価項目

| 評価項目 | 重点取組：取組内容 | 重点取組：成果指標（数値目標） | 具体的取組 | 中間評価：進捗度（評価） | 中間評価：進捗状況と見通し | 最終評価：達成度（評価） | 最終評価：実施結果 | 学校関係者評価：評価 | 学校関係者評価：意見や提言 | 主な担当者★ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ●学力の向上 | ○全職員による共通理解と共通実践<br>・主体的な学習者の育成へ向けた個別最適な学びと、協働的な学びの充実～DXとフォーサイト手帳の活用を通して～ | ○ICTを効果的に活用して、自分に合った学習に取り組んでいると回答した生徒70%以上<br>○私は、友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいると回答した生徒70%以上<br>○フォーサイト手帳を活用して計画を立てて学習や生活をしていると回答した生徒70%以上 | ・業績評価において授業改善のための評価指標を立て、授業実践を行う。<br>・朝の会と帰りの会でフォーサイト手帳を活用して生徒に見通しと振り返りをさせるための指導と評価を行う。 | A | ・7月に実施したアンケート調査で、「自分に合った学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒が92%。<br>・7月に実施したアンケート調査で、「友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒が93%。<br>・7月に実施したアンケート調査で、「フォーサイト手帳を活用して計画を立てて学習や生活をしている」に肯定的に回答した生徒が73%。 | B | ・12月に実施したアンケート調査で、「自分に合った学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒が95%。「友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒が95%。「フォーサイト手帳を活用して計画を立てて学習や生活をしている」に肯定的に回答した生徒が62%であった。<br>・フォーサイトの活用が、後半停滞してしまった。来年度に向け再度職員全体で生徒へ活用を促す。 | B | ・教職員におけるフォーサイト手帳活用の積極性が低いように感じる。（教職員アンケートNo.3より、あてはまる→11%）<br>・フォーサイト手帳の活用についての理解を先生、生徒でしっかり学んでいただき、来年度に活用して、役立ったと実感できた生徒を増やしていただきたいと思います。 | ★学力向上Co<br>研究主任<br>LDX担当<br>ICT教育担当 |
| ●心の教育 | ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○支持的風土を醸成する取り組みをしている教師80%<br>○「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80%以上 | ・学級活動の充実を図る。実態に応じて構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、計画的に行うことで、よりよい人間関係をつくる。<br>・生徒会活動や学校行事等さまざまな場面において、生徒に役割と出番を与え、認め合う場を設定する。 | A | ・支持的風土を醸成する取り組みをしている教師98.1%<br>・「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80.4%<br>・数値目標をどちらも達成しているので、今後も継続して活動を続ける。 | A | ・支持的風土を醸成する取り組みをしている教師88.7%<br>・「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80.0%<br>・どちらも中間評価から数値は下がっているが、数値目標は達成しているので今後も継続して活動を続ける。 | A | ・支持的風土を醸成するために、先生方が管理的ではなく、穏やかな雰囲気でいていただきたいです。生徒たちは、出番や役割がなくても、褒められることが少なくでも、存在そのものが認められる環境が、いじめや、不登校を予防し、その結果、学力向上、進路実現に結びつくと考えています。 | ★道徳主任<br>人権・同和教育担当<br>生徒会担当<br>特別活動担当 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒90%以上<br>○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員100% | ・毎月第3木曜日にいじめアンケートを実施する。<br>・アンケートに記載された内容はも漏れなく聞き取りを行い、複数職員で早急に対応する。<br>・いじめの認知について、教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。<br>・いじめ対応に関する研修会を全職員向けに9月に実施する。<br>・臨場指導を行う。 | A | ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100%<br>・「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒93.1%。否定的回答をしている生徒を取りこぼさない指導を行っていく。<br>・毎週の生徒指導部会で、いじめの認知や支援・指導についての共通認識を図ることができた。生徒に寄り添った聞き取りや早急な対応を、引き続き徹底していく。<br>・いじめ対応に関する研修会については、8月末に実施した。 | A | ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100%<br>・「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒91.1%<br>・教員および生徒の回答は、中間評価とほぼ同程度の評価ではあった。しかし、否定的回答をする生徒がいることから引き続き早期発見、早期対応の徹底と未然防止に努める。<br>・いじめ対応に関する研修会については、8月末に実施した。 | A | ・先生はしっかり対応していただいていると思います。生徒においてはアンケートの時は問題はなくても、いついじめの問題が発生するかもわかりませんので。生徒の小さな変化への気付きができるよう組織的な対応を今後もアップグレードしていけるよう継続した取り組みをお願いします。 | ★生徒指導主事 |
| | ●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上<br>●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上 | ・生徒の学習活動においては臨場指導を行い、評価方法を工夫して生徒に伝える。<br>・キャリアパスポートを活用したキャリア教育を期間や指導方法を示して計画的に行う。<br>・各種体験活動では、生徒に見通しと学びの振り返りを取り入れた活動を行わせる。 | A | ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒94.3%<br>・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒77.2%。学年が上がるにつれて肯定的回答の割合が増えてきているので、引き続き指導を充実していく。<br>・キャリアパスポートの活用を計画的に確実に行っていく。<br>・フォーサイト手帳の活用の支援を行い、生徒が見通しをもって行動できるように指導を継続していく。 | A | ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒91.7%。中間発表時より少し減っているが、行事等で関わりが深くなりと多様な視点からの声掛けが増えたためではないかと考えられる。<br>・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒73.1%。中学卒業後の進路や将来の職業について学習を進め、今後具体的な進路について考えさせていく。<br>・キャリアパスポートの活用を学年ごとに計画的に進め、行事や学期などについて生徒に見通しと学びの振り返りをさせることができた。 | A | ・中学生の頃から将来の夢や目標を持てるという生徒が多いことに、自分の中学生時代を思い返してみると幸せなことだなあと思います。先生方も生徒に対しての対応をされている(キャリア教育)は素晴らしいと思います。 | ★進路指導主事 |
| | ○教育相談体制の充実 | ○不登校生徒6.0%以下 | ・教育相談部連絡会を週に1回開催し、気になる生徒に対する初期対応及び深刻な問題へ発展しないための組織的対応を行う。<br>・保健室来室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化し、予防や早期発見を図る。<br>・スクールカウンセラーの活用を工夫し、全生徒への支援を充実させる。<br>・ほっとルームの効果的な活用を工夫し、生徒それぞれに合った支援体制をつくる。 | A | ・現在完全不登校生徒は約3%、不登校傾向生徒は約2%である。昨年度完全不登校だった生徒が別室などを利用し、登校できるようになった。しかし、不登校傾向生徒は増えてきている。今後も各担任や養護教諭、SC、SSW、別室支援員、訪問相談員、教育相談担当、管理職との連絡体制を整えて、より一層の迅速な対応を心掛け、不登校生徒を増やさないようにしたい。また、完全不登校の生徒たちへの働きかけがより充実するための方法を考えていきたい。 | A | ・現在不登校生徒は3%であり、目標数値内ではあるが、不登校傾向生徒は増えつつある。昨年度、完全不登校生徒が別室を利用したり、カウンセリングを利用しながら登校したりできるようになった。<br>・生徒への早期対応のため、学校内外の連携体制を整える取り組みを行った。その結果、職員アンケート「私は、教育相談担当、SC、SSW、訪問支援員と連携を図ってる」で、94.3%の職員が連携を実感している。今後もより一層の迅速な対応ができるように体制を教科していきたい。 | A | ・不登校生徒に対する支援は、様々にしていただきありがとうございます。ただ、不登校になってしまってからの支援では、間に合わないくらい不登校や不登校傾向の生徒が増えています。予防的な取り組みを考える必要ではないでしょうか。家庭も地域も一緒に考えたいです。<br>・教職員の取り組みが評価できる。学校の体裁を守るための数値目標でないことを望む。<br>・各家庭で様々な問題があり、対応もかなり苦労されていると思います。連携体制を整えて取り組んでいらっしゃるので今後も生徒のケアをお願いします。 | 教育相談主任 |
| ●健康・体つくり | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に良い食事をしている」生徒92.3%以上<br><br>○朝食をとって登校する生徒88.3%以上 | ・食事、健康に関する調査の実施<br>・食育だよりの発行<br>・食育にかかる授業実践 | B | ・「健康に良い食事をしている」と答えた生徒は90.1%と目標値を下回っていた。<br>・朝食をとって登校する生徒は90.1%と目標値を上回っていた。<br>・食事健康に関する調査を6月に実施した（全学年）。<br>・6月と7月に2年生において野菜摂取に関する授業を行った。9月以降、1年生と3年生において授業実践を行っていく。<br>・食育だよりは毎月発行している。給食の時間には教室を訪問し3分程度の話をしている。 | B | ・「健康に良い食事をしている」と答えた生徒は89.1%と目標値および中間値を下回っていた。<br>・朝食をとって登校する生徒は目標値の88.3%であったが中間値を下回っていた。朝食の大切さについて継続的な呼びかけが必要である。<br>・食事健康に関する調査を11月に実施した（全学年）。<br>・全クラスにおいて授業を実施した。<br>・食育だよりは毎月発行している。 | B | ・食事は学校のみならず家庭でも必要な課題であるので生徒を中心に　学校と家庭と共有が必要。<br>・保護者の回答では中間回答より今回が結果がよかったので今後改善していくと考えます。 | ★栄養教諭<br>給食主任 |
| | ○健康の維持・増進 | ○「睡眠時間を6時間以上とっている」と回答した生徒87%以上 | ・睡眠の大切さを伝え、睡眠時間を6時間以上とることを目安として健康増進を図る。<br>・保健だよりを発行する。<br>・生徒の生活状況を聞き取り個別指導を行う。 | A | ・生徒会保体部の活動の中で「早寝コンテスト」を企画し、各学級で22時30分までに就寝するよう働きかけた。<br>・毎月発行しているほけんだよりに睡眠に関する特集を記載し、生徒、保護者への啓発を行った。睡眠の大切さについてPTA研修部とも連携し、今後も意識を高めていく。<br>・保健室利用時に、睡眠不足が原因の生徒には個別に保健指導を行った。<br>・「睡眠時間を6時間以上とっている」と回答した生徒91.0%で指標は達成した。 | A | ・睡眠に関するアンケートを実施し、実態を把握した。6時間以上の睡眠は90%以上の生徒が達成でき、評価できたが、平日と休日のずれや日中の眠気、就寝前のスマホ操作に関しての問題点が明らかになった。睡眠の講演会を開催したことで保護者への啓発にはなったが、今後も家庭と学校が協力して取り組んでいく必要がある。 | A | ・スマホに関しては武雄市連合PTAでも「持たせない」という目標宣言も　ありますので再度保護者へも周知を図る必要性があると思います。<br>・スマホやゲームの利用については今後さらに家庭と学校の協力が必要になります。様々なものが早いスピードで変化していくのでしっかり対応していくためにも睡眠時間は大切ですね。 | ★養護主幹<br>養護教諭<br>保健主事 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。<br>●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ・管理職は業務記録表やヒアリング等をもとに相談や指導を行い、時間外労働時間を月45時間以内にするため具体的な業務改善を推進する。<br>・働き方改革プロジェクトチームを立ち上げ、業務改善策を提案していく。 | C | ・管理職は業務記録表やヒアリング等をもとに相談を行って状況の改善を図ろうとしているが、具体的な改善策が打てないでいる。働き方改革プロジェクトチームが立ち上げられていないが職員からのアイディアは寄せられているので推進していきたい。 | C | ・「14日以上年次休暇を取得しようとしている」と回答した教職員は58.5%。平均45時間以上の超過勤務の月が5割を超えるので課題である。<br>・衛生委員会において具体策を検討している。学年ごとに年休取得計画表を作成するなど取り組んでいきたい。 | C | ・先生方がゆとりをもって働ける環境づくりは、生徒たちのためにも喫緊の課題と言われ続けていますので、対応をお願いしたいです。先生方から挙がっているアイディアは試されましたか？先生方には、心身ともに健康でいただきたいです。地域の私たちにできることを一緒に考えさせていただきたいです。 | ★管理職 |
| | ○適正な部活動の運営 | ○「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランス（活動時間は週8時間）を図った部活動運営を行った」と回答した教師95%以上 | ・部活動運営計画に則り、休養日を設定する。<br>・毎月第3日曜日の「県下一斉部活動休養日」の実施。 | B | ・「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランス（活動時間は週8時間）を図った部活動運営を行った」と回答した教師90.6%で指標を下回った。まずは教職員が100%回答になるよう改善を図りたい。 | C | ・「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランスを図った部活動運営を行った」と回答した教師81.1%で中間評価からも下回ることとなった。原因解明と状況の解決に努めることが必要である。 | C | ・休養日の確保など教員の健康のためにも大切なことだと感じますが、もしかしたら部活動の活動が教員のモチベーションにつながるのかもしれません。先生皆さん方の考え方をしっかり聞いて解決につながればと思います。 | ★部活動担当 |
| ●特別支援教育の充実 | ○教員の専門性と意識の向上 | ○特別支援に関する専門性が向上した教員85%以上 | ・特別支援教育に関する研修会を実施する。<br>・個別の支援計画・指導計画を作成し活用する。 | A | ・特別支援に関する専門性が向上した職員は96.2%で、昨年度より4.1%上回って目標を達成することができた。今後4回の研修を計画している。<br>・教育支援計画、指導計画の共有方法を検討する。 | A | ・最終評価は98．1%で、目標値の85%を超え、昨年度末よりも大きく上回っている。また外部講師を招いた研修会を充実させることができた。その一方で、支援計画、指導計画の活用や、合理的配慮への理解に関しては課題が残った。活用方法を考え、指導や支援に生かしていけるようにしたい。 | A | ・教職員の取り組みが評価できる。 | 特別支援教育Co |

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

| 評価項目 | 重点取組：重点取組内容 | 重点取組：成果指標（数値目標） | 具体的取組 | 中間評価：進捗度（評価） | 中間評価：進捗状況と見通し | 最終評価：達成度（評価） | 最終評価：実施結果 | 学校関係者評価：評価 | 学校関係者評価：意見や提言 | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○探究学習の充実 | ◎自らの生き方を考えるため、問いや課題を見出し、探究的に学習し行動して解決する態度の育成 | ○「この時代を生きる自分の進路・生き方についてよく考えることができた」と回答した生徒80%以上 | ・学年の段階に応じ、地元各界のゲスト・ティーチャーに学ぶ（講話・活動等）機会を設ける。<br>・調査活動など実践方法、、得た成果や派生して生まれた新たな課題、成果を表現する方法等々について、フォーサイトを活用し記録させる。 | B | ・学年で実施する行事等に絡めながら、関係する専門家（ゲスト・ティーチャー）に学ぶ機会は、適宜適切に設けられている。年度ごとに、新たなゲスト・ティーチャーを探すのではなく、継続的、発展的な関係を築いていきたいものである。〔例；1年生「オカネを知る」…佐賀銀行武雄支店より〕<br>・左記についてフォーサイトと連携させる活動については、未開拓であると感じている。 | B | ・その年度での独創性や新鮮味に欠けた学習となりがちである。<br><br>・しかし、先輩の先行例が「学び方を学ぶ」のには奏功しているため、そういった点は継承しつつ「新たな観点、突っ込みどころ」を加えていくような精神をもっておきたい。<br><br>・来年度この地に開学する大学に指導・協力を仰ぎながらの「国際理解」など探求課題として面白いのではないか。 | B | ・ゲストティーチャー招へいや職場体験など、今の生徒たちには将来を見据えた課題を中学生時代から持てるというのはとても素晴らしいと思います。 | ★総合学習担当<br>進路指導主事 |
| ○安全教育の充実 | ○安全な生活環境の確保 | ○「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒85%以上 | ・安全点検・避難訓練を実施し、生徒・教職員の安全の確保、交通事故・生活事故防止に対する意識を高める。<br>・防災教育を実施する。<br>・生活部の保護者と連携し、年に3回程度朝の交通指導を行い、交通事故の未然防止につなげる。 | A | ・「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒は94.7%であった。<br>・「安全点検を確実に行い事故防止に務めている」と回答した教職員は100%であり、「危機管理マニュアルや消防防災計画を確認して緊急時に自分がとるべき行動を把握している」についても90.6%であった。100%になるように対策をとる。<br>・今後も避難訓練等を通して、生徒教職員ともに安全に対する意識を高めていく。 | B | ・「危機管理マニュアルや消防防災計画を確認して緊急時に自分がとるべき行動を把握している」と回答した教職員は94.3%で中間評価より3.7ポイント上回っている。避難訓練などを通して意識を高めることが出来たと考えられる。<br>・「安心して安全に生活できている」と回答した生徒は92.8%で中間評価より1.9ポイント下回っている。<br>・教職員、生徒ともに安心して安全に生活するために継続的に安全教育を行っていく必要がある。 | B | ・成果指標は達成していると思います。しかし学校で安心して生活するために、より高い意識をもって今後も取り組んでください。<br>・危機管理、安全管理はこれからもしっかり行ってほしい。<br>です。<br>・危機管理へ対する意識は重要です。 | ★安全教育担当 |

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志と誇りを高める教育

| | |
|---|---|
| 5　総合評価・<br>次年度への展望 | ・多様性を認め合い、合意形成する力を育む学級経営の充実を図る。～自己肯定感を高める道徳教育・特別活動を通して～<br>・フォーサイトノートの活用を通してPDCAサイクルを意識させ、目標に向けた自己調整力の向上を図る。<br>・学校、家庭、地域の協働により総合的な学習の充実を図り、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献したいと思う生徒の育成を図る。 |